

発達障害リハビリテーション学特論

[講義] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》大須田祐亮 osuda@hoku-iryo-u.ac.jp

【概 要】

発達障害リハビリテーションの対象となる、妊娠期・周産期・新生児期や学童期等の発達段階に関わる中枢神経障害や骨・筋・神経・関節などの発達や発育に影響する障害に対して、科学的根拠を基にしたリハビリテーションの評価法、治療手段について学ぶ。

【学修目標】

一般目標：発達障害リハビリテーション発展のために必要な現状と将来への課題を理解し、自らがその発展の一翼を担うことができる人材となるために必要な知識・技能を身につける。

行動目標：

1. エビデンスレベルの高い発達障害に対するリハビリテーション評価を説明できる。
2. エビデンスレベルの高い発達障害に対するリハビリテーションの介入方法を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明を行う。	大須田祐亮
2～4	発達障害に対するリハビリテーション評価 (1)	発達障害に対するリハビリテーション評価に関する概要を解説し、討議を行う。	大須田祐亮
5～7	発達障害に対するリハビリテーション評価 (2)	発達障害に対するリハビリテーション評価に関する文献調査を行い報告する。	大須田祐亮
8～10	発達障害に対するリハビリテーション介入 (1)	発達障害に対するリハビリテーション介入に関する概要を解説し、討議を行う。	大須田祐亮
11～13	発達障害に対するリハビリテーション介入 (2)	発達障害に対するリハビリテーション介入に関する文献調査を行い報告する。	大須田祐亮
14・15	発達障害リハビリテーションの実践報告	発達障害に対するリハビリテーションの実践報告を行う。	大須田祐亮

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

課題およびプレゼンテーション 100%

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【学修の準備】

関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること（80分）。

復習は、プリント、講義メモを活用して学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得するというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。